



Shikoku
Cancer Center News
No.82

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター

四国がんセンター ニュース



2023
4
April

基本理念 患者さんの立場にたち人格を尊重し、科学と信頼に基づいた最良のがん医療を提供します。



(西条市 高知八幡神社 撮影: 俊野 健治)

がん薬物療法 いままでとこれから

2022年度から、院長補佐兼がんゲノム医療センター部長を拝命しました仁科と申します。今回は、がん薬物療法およびがんゲノム医療についてお話しさせていただきます。

25年前、私が当院にレジデントとして赴任したころは、がんに対して効果のある薬剤や吐き気止めなどの副作用に対する薬剤もまだ少なく、治療成績も全く満足できるものではありませんでした。しかし、1990年代後半になると欧米では、腫瘍内科医のような薬物療法の専門家が活躍し、新薬の治験・臨床試験による薬剤開発が産官学連携の下で進み、がん薬物療法の領域は一気に発展しました。その一方で、日本では薬物療法の専門家が少なく、薬剤開発も遅れ、専門とする医師の育成が急務となっていました。2004年には日本臨床腫瘍学会が発足し、がん薬物療法専門医の育成が開始されました。第2回の日本臨床腫瘍学会は、当院の名誉院長である高嶋成光先生が会長を務められています。そして、現在、当院には私を含め9名のがん薬物療法専門医が在籍し、診療・研究の分野で活躍しています。

この20年間で、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬など、がん治療に貢献する多くの薬剤の開発が進みました。特に免疫チェックポイント阻害薬を使用した治療では、究極の目標である「治癒」に近い状態になる患者さんの割合が増えています。この領域に関わってきたものとして、ここまでできたかと本当に感慨深い思いです。

「がんゲノム医療」とは、がんの増殖に関連した遺伝子異常などを調べ、患者さんの治療や診断に役立てる医療のことです。2019年からは、数百の遺伝子異常を一度に調べることができる「がん遺伝子パネル検査」が保険承認されました。この検査により、治験も含めたがん薬物療法の選択肢が増え、そして、検査結果を蓄積し解析することで、新たな治療法が開発されると期待されています。また10年前には、本当にそんなことが出来るのかと思っていましたが、現在では、血液中のがんの遺伝子異常やがん細胞を調べることができるようになるまで進歩しています。この検査を応用して、がん手術後の再発を予測する研究や、がん検診としての研究が現在進行中です。

今後も、がん撲滅を目指して全世界でがん診療・研究は続きます。当院は2019年9月に厚生労働省からがんゲノム医療拠点病院に指定され、がんゲノム医療の診療や連携病院との連携体制を構築して参りましたが、2023年4月に再度指定を受けることになりました。この指定を受けたのは四国では当院のみです。今後も、この領域の診療や研究をけん引し、地域の皆様の期待に応える医療機関を目指すと共に、患者さんに最良のがん医療を提供して参ります。



(がんゲノム医療センター部長 仁科 智裕)



がん治療

最前線

臨床研究について

一生涯の間に約2人に1人が、がんにかかると言われています。そのため、がんの発症を予防し、新しい治療・診断法を開発し、がんにかかる人や、がんにより命を落とす人を減らすことは大きな目標です。例えば、糖尿病はインスリンの発見までは命を落とす非常に怖い病気でありましたが、インスリン製剤を始め様々な血糖降下剤の開発により、糖尿病と診断された後も何十年とうまくつきあっていくことができるようになりました。このように医療は、その時代で最善の医療サービスを提供することも大切ではありますが、研究活動を通して新しい予防法や治療・診断法を開発していくことが何より大切です。

研究活動は大学や製薬企業のような限られた研究機関のみで実施されている訳ではありません。皆さんが普段受診されている病院でも様々な研究活動が行われております。すなわち、皆様が病院でお会いする医療スタッフは単なる医療サービスを提供するだけでなく、より良い医療を提供するために日常診療から生じた疑問を解決していく研究者としての側面も持ち合わせています。

研究の種類としては、大きくは細胞や小動物を用いる基礎研究と患者さんから得られたデータを用いて行われる臨床研究があります。最近では、皆様から採取された血液や腫瘍細胞を分析し、臨床情報を結びつけて解析を行うトランスレーショナル研究（橋渡し研究）もあります。さらに臨床研究は日常診療で得られたカルテ情報のみを用いた研究（観察研究）や、検査や治療などの何らかの診療行為を伴う研究（臨床試験）があり、臨床試験の中でも、新薬の用量用法や有効性、安全性を評価し、国からの承認を得るために実施される研究を、「治験」と呼びます。

私が医師になってから四半世紀が過ぎました。この間にもがんの治療は大きく様変わりしました。予後は改善し治療に伴う副作用もかなり軽減され、治癒する方も増えてきました。残念ながら治癒しない方でもまだ糖尿病と同じとまではいきませんが、長く付き合っていく病気になりつつあります。これら全ては多くの方により行われた研究の賜です。

当院の職員も新しい治療法やより良いがん医療が提供できるよう、治験を含む臨床研究やトランスレーショナル研究など様々な研究活動に携わり、国内外の学会や学術誌を通して情報発信を行っております。

そのため、当院の職員から皆様にも研究への協力をお願いすることがあるかもしれません。ご負担になるようでしたら遠慮無くお断りいただいて大丈夫ですが、がん医療の発展のためにも研究活動にもご理解いただきますようお願い申し上げます。

（臨床研究センター長 上月 稔幸）



令和4年に当院の職員が発表した論文の中から、優れた内容の発表を行った職員に対し表彰式を行いました。



形成外科は手術後の体表面の変化や欠損に対して外科的治療を行い、その形態や機能の改善を目指す再建というものを主に行っている診療科です。治療のために腫瘍を広範に切除した場合、腫瘍発生部位の皮膚や組織が大きく欠損することがあります。その欠損部を覆えるように局所で皮膚を工夫して皮膚切開をしたり、体の別の組織から組織移植をしたり、また皮膚移植を行うなど、再建を時には他の診療科と共同で手術を行ったりしています。具体的には、頭頸部の疾患の場合、頭頸科とともに腫瘍切除後の再建に取り組んでいます。また乳がん治療においては乳房インプラントが保険適応になっており、乳腺外科と協力しながら乳房再建を行っています。

また、がん治療に伴ってリンパ節郭清が行われた場合、リンパ浮腫というむくみが発症することがあります。リンパ浮腫外来にて専門的な研修を修了したセラピストとともにむくみのケアを行っています。まずはマッサージの指導や弾性着

衣の装着を勧めています。さらには、よりリンパの流れをよくするために、リンパ管を静脈へつなぐリンパ管細静脈吻合手術（LVA）という方法も行っています。

当科では整容面・機能面の立場から、当院での治療後の患者さんのより良い生活を目指しています。

当科受診やご相談がありましたら、当院がん相談センターへお気軽にお問い合わせください。

（形成・再建・皮膚腫瘍外科医長 山下 昌宏）



エキスパートナース・メディカルスタッフ

EXPERT NURSE・MEDICAL STAFF

Part.58

認定遺伝カウンセラー

皆さまは「認定遺伝カウンセラー®（2019年1月付で商標登録、以下CGC）」をご存知でしょうか？2005年より認定制度が発足した遺伝に関する専門職で、2022年12月時点で全国に356名しかいませんが、当院ではいち早く2009年よりCGCが着任しました。

ではCGCが何をしているかというと、「がんの遺伝に関する心理・社会的な支援を含めた相談・情報提供」です。「がん家系」と言われる方の中には、生まれもった遺伝子の変化が原因で特定のがんにかかりやすい体質の方がいます。身内にがん罹患した方が多くて「遺伝じゃないか？」と気になっている方々へ具体的な検査の方法や結果に基づく対策をお話したり、血の繋がった方へどう対応していくか、一緒に相談したり。

また、最近は、コンパニオン診断やがんゲノムプロファイリング検査など、遺伝情報を治療選択に活かす検査が次々と登場してきています。それらの検査は遺伝性腫瘍の診断に繋がることがあるため、「たまたま体質が分かった方」であっても遺伝情報をうまく活用できるようにサポートしたりもします。

遺伝に関する専門部署はどこにでもあるわけではないため、遺伝診療の普及につれ院内外からの問い合わせや紹介も増えていきます。遺伝性腫瘍診療には様々な診療科、多職種、多施設との連携、協力が必要です。その中心を担う専門職としてこれからも遺伝性腫瘍診療を支えていきたいと思っています。

遺伝のことが気になる患者さまやご家族、遺伝子検査について知りたい方がいらっしゃいましたら、お気軽にお声がけください。

（遺伝性がん診療科 認定遺伝カウンセラー® 岡村 弥妃）



☑ がんセンターだより

がん講演会「がんと共に生きる」 with 愛 GIVER project

毎年恒例のこの「がんと共に生きる」講演会。ここ2年ほどは会場での開催を断念し、愛媛CATVを通じて皆さまにお届けしてきました。今年は3年ぶりに当院を会場に「がんと共に生きる人を支える」と題して、感染対策に細心の注意を払い無事開催にこぎつけることができました。今回はまず始めに、宮脇看護師による医療職との上手な話し方に関する講演。途中少し息抜きもはさみながら、瀬野医師、大鶴医師からそれぞれ両立支援について、膵がんについての講演は滞りなく進行しました。

寒さもなくふんわりいなかを感じられる土曜日の午後、ほぼ満席となった会場には当院かかりつけの方以外にも様々な方がみえられ、中には医療・介護関係の方なども来場されていました。お互いの顔を見て直接コミュニケーションがとれるこのような機会は久しぶりだったためか、会場からは活発な質問や感想が飛び交い、ご自身の経験を涙ながらに話される方など、私たちにとても皆さまの声を聴く貴重な時間となりました。

治療の際など皆さまがなかなか口に出しづらいこと、どこに聞けばよいか分からなくて困っていること、私たちがもっとお伝えしたい、知ってほしいけれどまだまだ届いていないこと。改めて考えるきっかけとなった会でした。

(経営企画室 三宅 博之)

四国がんセンター講演会 2023
「がんと共に生きる」
 with 愛 GIVER project がんと共に生きる人を支える

先着70名様限定 入場無料・事前申し込み不要

日時 2月18日(土) 13:30~15:30(13:00開場)
場所 四国がんセンター 3階 大研修室 松山市南梅本町甲160

講演①	講演②	講演③
医療職との上手な話し方 独立行政法人 国立病院機構 四国がんセンター がん看護専門看護師 宮脇 聡子氏	両立支援について 独立行政法人 国立病院機構 四国がんセンター 看護・救急部長 瀬野 成人氏	膵がんについて 独立行政法人 国立病院機構 四国がんセンター 消化器内科部長 大鶴 徹氏

「もしも」愛媛マンドリンバイレーツ選手による体操教室

放送チャンネル ▶愛媛CATV「イベントチャンネル」(地デジ122ch)
放送日時 2月25日(土) 13:00~ ※当日以降にも録画のオンデマンド放送が予定されています。

視聴方法 愛媛CATVをご契約世帯の方は、上記チャンネルで視聴
 視聴方法など、視聴についてお問い合わせは 愛媛CATV ☎0120-93-1616 (電話受付時間 平日・土・日曜日 9:00~16:00)

※愛媛CATV(えひめ・すのぞかチャンネル) (CATV022ch) のインターネット配信でもご覧いただけます。
 ※2024年2月25日(土)のインターネット配信は有料となります。予めご了承ください。

【お問い合わせ】四国がんセンター経営企画室 TEL:089-999-1111(代)
 主催/独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 共催/愛媛新聞社
 後援/愛媛県議会がん対策推進議員連盟、NPO法人 愛媛がんサポートおれんじの会、一般社団法人 キャンサーベランピング、認定NPO法人 ライフアミエ



治療中の働き方に関する相談を実施しています!

～就職・就労相談状況のご報告～ 平成29年4月～令和5年2月



四国がんセンターは、
 がん患者さんの“働きたい!”
 をサポートしています。
 お気軽に、スタッフまで
 お声掛けください。

ちりょうさ
 厚生労働省「治療と仕事の両立支援」キャラクター

《新しく仕事を探している方のための就職相談》

相談延べ人数 580人 就職延べ件数 117件

《仕事を続けたい方のための就労相談》

相談延べ件数 96件

相談者の
 声

「病院で仕事の相談ができると思わなかった」
 「話ができ、気持ちが楽になった」
 「病気になった私でも、できる事があると思えた」

【お問い合わせ】がん相談支援センター TEL:089-999-1114

四国がんセンタークリニカルパス大会を 開催して



パスとは、クリニカルパスの略で、患者さんと医療者の日々の目標を組み込んだ診療計画のことです。四国がんセンターでは、現在99種類のパスを運用中であり、入院患者さんのうち約6割の患者さんでパスを活用して診療しています。

そして今回、3年ぶりにクリニカルパス大会を開催しました。この大会は、各部署における診療の質改善、医療者へのパス教育などを目的に、毎年開催されていましたが、コロナ禍でのイベント自粛に伴って、2021年、2022年は中止となっていました。今年度こそは、と2023年1月ついに開催にこぎつけ、できる限りの感染対策を講じて集合形式にて行いました。消化器内科：浅木先生の四国がんセンターのパスについての講演の後、医師、看護師など9種の医療スタッフは、3つのグループに分かれてパスの作成を行い、自分たちが作ったパスの特徴と魅力についてプレゼンテーションを行いました。最後に参加者による投票で最優秀賞が決まりましたが、どのグループのパスも甲乙つけがたく素敵な出来栄

でした。

この数年、コロナを経験することにより私たちの社会様式は大きく変化しました。オンライン会議やテレワークもその一つで、距離や移動時間の制約から解放されたことは大きな恩恵であり、今後も活用されるでしょう。しかし、今回のパス大会では、あえて対面でグループワーク形式を選択しました。実際に、距離の近さから、短時間に様々な意見が積極的に飛び出し、次々とアイデアとして取り入れられているのを見て、対面・集合の良さを改めて認識しました。このような参加者の経験がさらに広がって、院内各部署の活性化につながればと感じています。

そして何よりも、オンラインでのスピーカー・スクリーンからの声と姿ではなく、生き生きとした会話が絶えず交差し、多くの笑顔がこぼれ、溢れている光景を目の当たりにして、幸せな気分を味わえた1日となりました。

(クリニカルパス推進委員会委員長 羽藤 慎二)

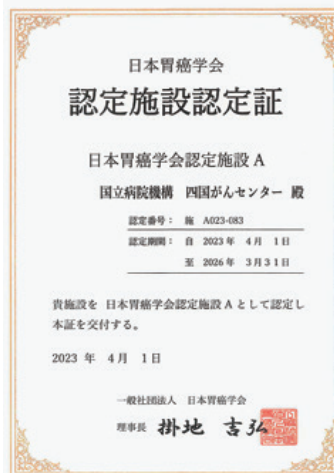


日本胃癌学会認定施設 A に認定されました

近年、胃癌治療の進歩はめざましく、その内容は高度化・多様化・専門化していますが、今後も質の高い胃癌治療を広く社会に提供してゆく必要があります。そのため、2023年4月から日本胃癌学会施設認定制度が発足し、専門性が高く、経験豊富な施設の認定が開始されています。

当院は、認定施設基準（A）、（B）のうち、関連学会の専門医数、手術・内視鏡治療・化学療法の症例数、学術活動などの基準がより厳しい認定施設（A）に認定されました。消化器内科、病理科、消化器外科などの診療科による総合力の高さを活かして、質の高い胃がん診療を今後も進めてゆきます。

(消化器外科 羽藤 慎二)



医者のつづき リレーエッセイ



●第二十二回 職業訓

ひとには何かしら少し優れた点や得意なもの、別の言葉で言えば得意技があって、それを使って世間で糊口を凌いでいく。

先日武藤敬司の引退試合をインターネット放送で見るために夕刻早々に帰宅した。ちょうど自分が社会人になった頃から活躍し始めたプロレスラーなので、一緒に働いた同期のようなものだ。武藤はあらかじめ勝ち負けが決まっているとされるプロレスにおいて、**勝敗にかかわらず殆どの試合で勝利をおさめてきた**崇めるべきレスラーだった。得意技は、コーナーポストに駆け上って仰向けに宙返りし、リング上に横たわる相手に体を打ちつけるムーンサルトプレス。膝を痛めて以来出来なくなってしまったが…。

得意技は、他人にはそうと思えないもののこともある。私の場合は、“ソファーに仰向けになり、ビールを飲みながらプロレスや野球を見る”が相当する。寝そべるフォルムも、飲み方も、試合を楽しむ能力も大変優れている。外形的には武藤のそれにきわめて近い。

冷静に後で考えると泣くようなところはどこにもない引退試合だったが涙が止まらなかった。たまにしか早く帰らない自分が居間でプロレスを見ながら泣いているとかっこが悪いので、家人にいかに同期が偉大か話してみた。『コーナーにあがって、何もせず降りたやろ。あれはドクターストップがかかって出来なくなったムーンサルトプレスを引退試合だからやろうとしたんだ』

『……』

『武藤の場合、飛距離が長くて回転も早いから、マットに強く打って自分の膝がひどく痛む。勢いを全部自分の膝で吸収して、相手に被さる。とても優しい。全スポーツの中で最も美しい技だった』

『……』

『膝に人工関節をいれるまで会場の大小を問わず、客のチケット代のために毎回披露した。すごいね。入れた後もたまにしていたし』

『……』

『病理医になったときに、〇〇先生から“病理診断に貴重症例なし”って言われた。武藤の必殺技と同じ』（筆者注：病理診断に難しいかどうかの別はあっても、貴重かどうかの別はない）

『……』

『こんなことが言えるのが僕の得意技じゃ（筆者注：岡山弁）』

武藤の得意技は相手レスラーにはダメージはなかったが、私の心には衝撃と消えることのない感銘を、武藤の膝には衝撃と回復不能な破壊を与えた。

彼の両膝は中年になる前から破壊され、人工関節に置き換わっている。武藤は最後ムーンサルトプレスを飛ばなかった。嫁さんや子どもに強く止められたそう。もう一つ教わった。

（病理科医長 寺本 典弘）



治験 CHIKEN CORNER コーナー

ちけん

「当院では治験を実施しています」

こちらは、治験・臨床試験管理室です。このコーナーでは、ただ今、募集の治験等の情報を提供しています。なお、当院HPにて、詳細情報を公開中です。

（治験主任 宮田 篤）



●現在募集の治験等情報

下記の件数は企業治験、医師主導治験、製造販売後臨床試験の「現在募集中の治験情報」です。

●肺がん ……………41件	●大腸がん ……………10件	●胆道がん ……………1件	●悪性リンパ腫 ……8件	●頭頸部がん…………5件
●乳がん ……………33件	●小腸がん ……………1件	●尿路上皮がん ……1件	●子宮体がん…………4件	
●胃がん ……………12件	●前立腺がん…………7件	●卵巣がん ……………8件	●子宮頸がん…………2件	
●食道がん ……………3件	●膀胱がん ……………6件	●固形がん ……………12件	●唾液腺がん…………1件	

（令和5年3月30日現在）

がんセンター 俳句ポスト

ハイ!一句



作品が選ばれましたら、四国がんセンターニュース（年4回発行）と選者発行の「俳句ライフマガジン『100年俳句計画』」（月刊誌）へ掲載するほか、当院ホームページ等インターネットやテレビ、ラジオなどの各種媒体にてご紹介させていただきます。

選者：三瀬明子(俳句ライフマガジン「100年俳句計画」発行人)



寒椿喜怒哀楽の五十年

(T.Oさん 77歳・男性)

椿は春の花ですが、冬のうちから咲き出す椿を寒椿・冬椿と言います。厳しい寒さの中でも咲く寒椿を、ご自身と重ね合わせたのでしょうか。喜怒哀楽すべてが詰まった五十年、長く激動の半世紀。どんな日々であっても、寒椿のように、凛と鮮やかに咲いていたい。しみじみと共感できる一句です。

入選 せつぶんのまめをまかずに にゅういんし

(妙子さん 62歳・女性)

たまたまその時期に入院がかぶってしまい、節分なのに、豆まきをせずに入院してしまったなど、少し気がかりな作者。とはいえ、すべてがひらがな表記であるのと、切れを作らない読みぶりのおかげで、俳諧味とユーモアを感じます。

入選 九十四良き爪二本みかんはぐ

(I.Fさん 94歳・女性)

九十四は作者の年齢のことなのですね。九十四歳で良い爪が二本、その爪でみかんを剥く、という一句。年齢を重ねると爪も弱ります。さらに当院の俳句なので、抗がん剤治療による爪のダメージ、ということもあるのかもしれません。残った大切な二本の爪。みかんの香り。感情を抑えた表現が、読者の想像をかきたてます。

入選 しつけ糸取るよな抜糸微痛よの

(R.Kさん 75歳・女性)

しつけ糸をすーっととるように抜糸。こんなに簡単に終わるのかと感心したり、驚きもしたり。「微痛よの」も、楽しい言い回しで好きなのですが、季語に置き換えてみることもできますよ。例えば「朧月（おぼろづき）」「春の雨」「花薔（はなあざみ）」。選ぶ季語によって痛みの程度が変わってきます。

入選 句碑あまた訪ふてリハビリ年暮る

(じゅうめいさん 82歳・男性)

句碑巡りをすることがリハビリとは、俳都松山らしくて素敵です。句碑までの歩き、句碑に書いてある俳句の解説など、体も頭も刺激してくれそう。院内には「伊豫の細道」という散歩コースがあり、句碑も設置されているそうですよ。「年暮る」の着地も、びたっと気持ちよく決まっています。

入選 ガン告知タイルの床も光りあり

(重じいじさん 60歳・男性)

「ガン告知」を受けるというのは重く深刻な場面です。思わずうつむいたのでしょうか。その時、目に入った床のタイルに光を見つけた作者。大変なショックの中、希望の光が射したように感じられたのでしょうか。読者の一人としても救われた気持ちになりました。



皆さんの「一句」 募集中

患者さんのご要望で生まれた四国がんセンターの俳句ポスト、「ハイ!一句ポスト」。大変ご好評をいただいております。設置場所は、各階エレベーター前、図書コーナー、総合案内、支援センター「向日葵」で、作品は随時募集中です。患者さん、ご家族、面会の方、職員、どなたでも気軽にご投稿ください。皆さんの「自慢の一句」「楽しい一句」をお待ちしております。



「ユキヤナギ (雪柳)」伊予郡松前町
撮影：高市 瑞穂

外来診療一覧表

- 新患受付時間 7:30~12:00
- 診療時間 8:30~17:15
- 休診日：土・日・祝日及び年末年始

担当医は変更となる場合があります
のでご了承ください

四国がんセンター概要

〒791-0280

愛媛県松山市南梅本町甲160

TEL: 089-999-1111

FAX: 089-999-1100

<https://shikoku-cc.hosp.go.jp>

環境

“いで湯と城と文学の街”ここ愛媛の松山はノスタルジックあふれる城下町。当院はこの城下町の南東に位置し、東に霊峰石鎚、北に道後温泉、西に伊予灘を望み、自然に恵まれた最高の療養環境に立地しています。

交通機関も伊予鉄巡回バスの運行など便を増やすことで来院も便利になりました。

今後とも患者さんの視点に立った細かな配慮を心がけ、西日本を代表する「がん専門病院」として精進いたします。

診療内容

- | | |
|-----------|--------------|
| 呼吸器内科 | 乳腺外科 |
| 呼吸器外科 | 婦人科 |
| 消化器内科 | 頭頸科・甲状腺腫瘍科 |
| 消化器外科 | 骨軟部腫瘍・整形外科 |
| 精神腫瘍科 | 形成・再建・皮膚腫瘍外科 |
| 緩和ケア内科 | リハビリテーション科 |
| ストーマ外来 | リンパ浮腫 |
| 禁煙外来 | 放射線診断科 |
| 泌尿器科 | 放射線治療科 |
| 血液腫瘍内科 | 病理診断科 |
| 感染症・腫瘍内科 | 歯科 |
| セカンドオピニオン | 麻酔科・疼痛外来 |
| 遺伝性がん診療科 | がんドック |
| がん看護外来 | 原発不明がん診療科 |

病床数

368床

当院は予約制を行っており、予約患者さんを優先しております

診療科			月	火	水	木	金	
消化器	内科	食道・胃・大腸・膵臓	梶原(化)	仁科(化)	仁科(化)	梶原(化)	○坂口	
			大鶴(化)	—	大野(内)	日野(化)	小森(化)	
			西出(内)	—	久門(内)	—	長谷部(内)	
	外科	肝・胆・膵	—	浅木	—	—	浅木	
		食道・胃	—	羽藤	—	柿下/西脇	—	
		大腸	小林	高津	—	小島	落合	
呼吸器	内科	肝・胆・膵	—	大田	—	御厨	—	
		内科	○原田	二宮	○二宮	上月	原田	
			○加藤			加藤		
	外科	内科新患	—	○原田	○上月	加藤	○二宮	
		外科	山下(素)	上野	末久	重松/山下(素)	重松	
		禁煙外来	—	—	—	○末久	—	
緩和ケア内科			○成本	○三浦(耕)	○成本	○成本	○三浦(耕)	
泌尿器科 【新患/予約外は午前のみ】			橋根(FAX紹介のみ)	—	橋根	—	安宅	
			湊	—	安宅	—	湊	
			河野	—	河野	—	多田	
血液腫瘍内科			—	吉田	—	吉田	—	
感染症・腫瘍内科			○濱田	担当医	担当医	○濱田	担当医	
婦人科			竹原/坂井	予 婦人科医師	竹原	予 婦人科医師	大亀/藤本	
			横山	—	大亀	—	坂井	
			日比野	—	△藤本	—	横山/日比野	
乳腺外科			青儀	高島	高橋(三)	青儀	高島	
			河内	高橋(三)	河内	山下(美)	○★河内	
			—	山下(美)	—	—	○☆山下(美)	
形成・再建・皮膚腫瘍外科			△山下(昌)	○山下(昌)	—	—	○松本	
頭頸科・甲状腺腫瘍科 (耳鼻咽喉科)			門田/昌	担当医	門田/原	担当医	青井	
			青井	—	青井	—	田原	
			田原/相原	—	相原	—	相原/田口	
予 骨軟部腫瘍・整形外科			○杉原/○畑	△杉原/畑	○杉原/○畑	畑	○杉原/○畑	
歯科			三浦(晃)/井上	井上	井上	三浦(晃)/古川	井上	
			古川	古川	古川	井上	古川	
放射線	診断科	菅原	桐山	清水	菅原	細川		
	治療科	濱本	濱本	長崎	神崎	神崎		
予 麻酔/疼痛外来			原田	★首藤(聡)/☆正岡	—	—	武智	
併存疾患センター ※1は院内紹介のみ			予 リンパ浮腫外来	—	○松本	—	○山下(昌)	
			予 リンパ浮腫ケア外来	—	リンパ浮腫ケア(自費)	—	—	リンパ浮腫ケア(自費)
			皮膚科	藤山	藤山	藤山	藤山	藤山
			眼科	—	○担当医※1	—	—	○担当医※1
			循環器内科	○倉田	△東※1	○倉田	○倉田	△船田※1
			内分泌内科	—	—	—	—	—
糖尿病内科			—	○川村/○羽立※1	—	—	○高門/○池田※1	
予 ストーマ外来			—	落合	○橋根	○小島	—	
予 原発不明がん診療科			—	△青儀	—	—	—	
予 セカンドオピニオン			担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	
予 がんゲノム医療外来			○担当医	—	担当医	—	—	
予 遺伝性がん診療科			担当医	○山本	担当医	○山本	担当医	
			—	—	—	○大住	—	
予 がん看護外来			担当看護師	担当看護師	担当看護師	担当看護師	担当看護師	
がんドック			酒井	徳永	酒井	徳永	酒井	

予…予約のみ ○…午前のみ △…午後のみ ★…奇数週 ☆…偶数週 (化)…化学療法担当 (内)…内視鏡治療担当
※診療担当は変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

TRAFFIC ACCESS 交通のご案内



車でのお越しの場合

- 松山空港から車で 約45分
- JR松山駅から車で 約30分
- 松山市駅から車で 約25分
- 松山自動車道
 - 松山インターから車で 約20分
 - 川内インターから車で 約20分

電車・バスでお越しの場合

